

# 状況記録写真

(様式 6)

|    |    |
|----|----|
| 区分 | 自主 |
|----|----|

森林技術センター



萌芽区 A  
キハダ No 9  
H14. 12. 9



萌芽区 A  
スダガシ No 28  
H14. 12. 9



萌芽区 A  
ヒサカキ  
No 13・No 14  
H14. 12. 9



萌芽区 A  
ヒサカキ No 18  
H14. 12. 9

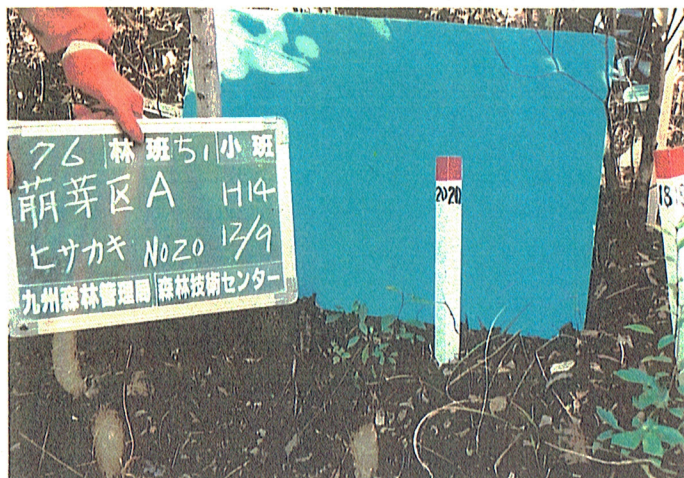


# 状況記録写真

(様式6)

|    |    |
|----|----|
| 区分 | 自主 |
|----|----|

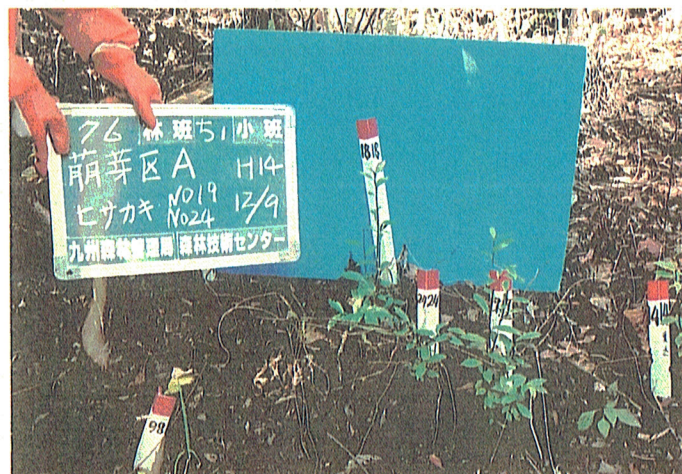
森林技術センター



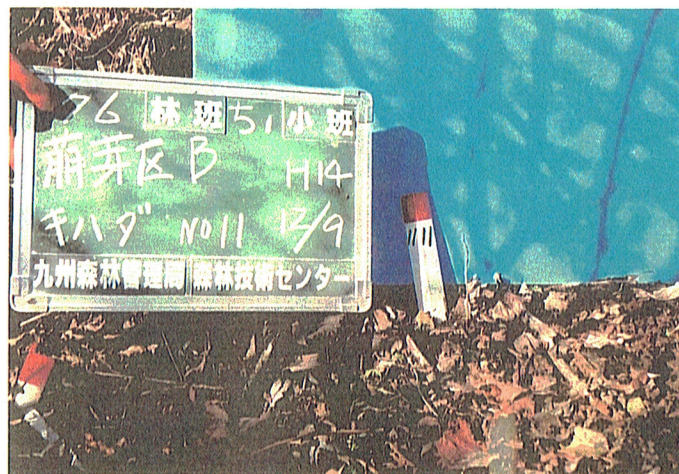
萌芽区 A ヒサカキ No20 H14.12.9



発芽調査 萌芽区 B H14.12.9



萌芽区 A ヒサカキ No19, No24 H14.12.9



萌芽区 B キハダ No11 H14.12.9



# 状況記録写真

区分 自主

森林技術センター

(様式 6)



萌芽区B  
キハタ<sup>ノ</sup> No33  
H14.12.9



萌芽調査  
萌芽区C  
H14.12/9



萌芽区C  
マツ No16  
イキリ No92  
H14.12.9



# 状況記録写真

区分 自主

森林技術センター

(様式6)



萌芽区C  
マツ NO.16  
椎ギリ NO.92  
H14.12.9



萌芽区C  
マツ NO.34  
不明 NO.17  
H14.12.9



萌芽区C  
マツ NO.34  
不明 NO.17  
H14.12.9  
(同上)

# 技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

|   |  |         |          |             |             |   |           |           |   |  |
|---|--|---------|----------|-------------|-------------|---|-----------|-----------|---|--|
| 課 題   | 17<br>国土保全林等における人工単層林を天然林に誘導する技術の確立（更新）  |         |          |             | 開 発 期 間     | 平成8年度 ～ 平成23年度  |           |           |   |  |
| 開 発 箇 所   | 鱒頭国有林<br>76ち、林小班   | 担 当 部 署 | 森林技術センター | 共 同 研 究 関 機 | 技 術 開 発 目 標 | 1   | 特 定 区 域 内 | 特 定 区 域 外 | ○ |  |
| 開 発 目 的<br>(数 値 目 的)  | スギ・ヒノキの単層林伐採跡地において、地かき、ぼう芽、天然下種及び種子の播種による早急な天然林へ誘導する更新技術を解明、人工単層林伐採跡地を天然林へ誘導する技術を確立する。   |         |          |             |             |   |           |           |   |  |
| 年 度 別 実 施 報 告   | 15年度 実 施 報 告   |         |          |             |             | 16年度 実 施 計 画 書  |           |           |   |  |
|   | 実 施 内 容  |         |          |             |             | 普 及 指 導   |           |           |   |  |
| 平成8年度<br>①試験地設定②播種及び地かき<br>③試験地調査④植生調査<br>平成9年度～平成14年度<br>①植生調査 | <p>1, 試験地調査<br/>平成15年11月調査（野帳別途保管）<br/>人工数：4,000人<br/>播種区で、アキ、シダモ、ネミチ、ムラキキア、ヤマダケ、の稚樹を確認した。<br/>地掻き区で、ニトコ、ネミチ、ツブキ、ムラキキアの稚樹を確認した。<br/>ぼう芽区で、ヒカキ、イカシクサ、キナ、イギリ、ツブキ、ムラキキア、アマツ、カキキを確認した。</p> |         |          |             |             | <p>1, 実施結果<br/>全体的に、アカメガシワ・カラスザンショウ・クサギ等の先駆性樹種（夏木）が繁茂し、有用樹の発生が非常に少ない現状にある。<br/>今後、先駆性樹種が繁茂した後、有用樹がしだいに発生して来ると考える。<br/>14年度と同じく、各プロットとも稚樹の発生は非常に少ない。</p> |           |           |   |  |
| 技術開発委員会における意見   |  |         |          |             |             |   |           |           |   |  |

- (注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。  
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。  
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。  
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。